

別紙

音別義務教育学校

「6・3制」に捉われない「弾力的な学年段階の区切り」等の考え方について（案）

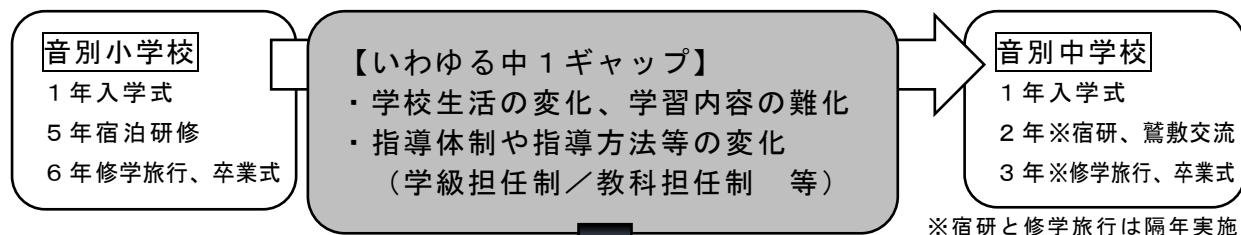
※参考資料

「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」（令和4年（2022年）12月）釧路市教育委員会

1 義務教育学校特有のワード

○小学校課程→「前期課程」○中学校課程→「後期課程」○中1～中3→「7年生～9年生」

2 小中一貫教育の充実



- 中学校入学を機に、精神的・身体的な負担を感じる子どもが一定数存在
 ○多くの問題が顕在化するのは中学校段階からだとしても、実は、小学校段階から問題が始まっている場合が少なくない

【ポイント①】
 小5辺りから抽象的な考え方ができ心が揺れ動く時期

《施設一体型の音別義務教育学校…○一人の校長 ○一つの教職員集団》

【音別義務教育学校に対する期待】

- 「一つの学校」という安心感の下、全ての教職員による継続的・安定的な取組
 策1～目指す子ども像（15歳の姿）を共有
 策2～子ども一人一人の情報を共有し、きめ細かく支援できる体制を構築
 策3～「9年間を通じた教育課程」を編成し、系統的な教育を実施
 策4～小中教職員の相互乗り入れ授業の工夫
 （小学校の「きめ細やかな指導技術」と中学校の「教科の専門性」の両立）
 策5～児童生徒の発達の段階やリーダー性の育成等に配慮し、9年間で「いくつかのまとまり」に分けた上で、効果的な交流や集団活動を実施

○憧れの気持ち等
 （下級生） ← → （上級生）
 ○思いやりの心等

【ポイント②】
 「節目」を生かした取組の充実が「成長の自覚」に肝要

音別義務教育学校における「学年段階の区切り」等について（案）

- ①児童生徒の発達の段階を考慮するとともに、いわゆる「中1ギャップ」の解消・緩和に資するよう、音別義務教育学校においては、9年間で3つの「まとまり（“ステージ”と呼ぶ）」に分けた考え方である「4－3－2制」を採用する。
 ②「1stステージ(1～4年)」「2ndステージ(5～7年)」「3rdステージ(8・9年)」と呼ぶ。
 ③各ステージの主な「位置付け」は、概ね次のとおりとする。今後、微調整が有り得る。
 ・1st…生活・学習の基盤の定着。4年生は1st(1～4年生)のステージリーダーとして活動。
 ・2nd…人とつながる大切さを実感。経験を踏まえた工夫。7年生は2nd(5～7年生)のリーダー。
 ・3rd…適性を知り、学校・地域への貢献の楽しさを実感。9年生は学校全体のリーダー。
 ④各区切りの節目を捉え、児童生徒に「成長の自覚」を促す行事等を、今後検討する。
 ⑤制服等は、小・中の教職員・保護者で構成する「制服検討委員会」にて別途検討する。